

2017年7月3日

### 朝礼の話 (2017年7月)

皆さんお早うございます。今年の近畿地方の梅雨入りは、先月7日と平年なみでしたが、梅雨入り後も雨の日は少なく30度を越す真夏日となる好天が続きました。最近では梅雨前線と熱帯低気圧が絡んで局地的豪雨となっています。今年も京都の夏の風物詩である祇園祭りが先週土曜日から始まりました。14日～17日の前祭り（さきまつり）の行事の時期と梅雨明けの時期が毎年重なります。これから約半月の間梅雨空の鬱陶しい日が続きます。梅雨時期は蒸し暑さと梅雨冷えが交互に来て、体調管理にも注意が必要です。寝苦しい夜が続きますが、快適な睡眠を心がけ、梅雨の季節を元気に乗り切っていきましょう。

先月14日、米連邦準備理事会（FRB）は、米連邦公開市場委員会（FOMC）で3ヶ月ぶりに利上げを決めました。短期金利の指標であるフェデラルファンド（FF）金利の誘導目標を、年0.75～1.00%から1.00～1.25%に引き上げました。今後の利上げペースについては、年内さらに1回を見込み、3月、6月と合わせて年3回とし、2018年も3回、19年も3回程度の追加利上げを見込む政策シナリオを維持しました。量的金融緩和で膨らんだ保有資産の圧縮にも年内に着手する予定と表明し、米国債を最大で月300億ドル圧縮する基本計画を公表しました。FRBは、08年秋のリーマンショック後の世界金融危機対策としてゼロ金利と量的金融緩和策に踏み切りました。米金融市場の正常化、景気回復とともに14年10月に量的緩和策の終了、金利政策の正常化への政策転換を決定し、15年12月に9年半ぶりとなる利上げに踏み切りました。その後、インフレ率の低さ、景気の先行き不透明感、イエレン議長の慎重姿勢があり1年間利上げが見送られてきましたが、16年12月に1年ぶりに2回目の利上げが実施されました。米国経済の好調さを反映し、本年3月に3回目の利上げが実施され、今回が4度目の利上げとなりました。通常、政策金利である短期金利を段階的に引き上げて、金融引き締め方向に向かえば、長期金利も上昇するというのが金融の常識とされています。ところが、米債券市場で長期金利の指標となる米10年国債利回りは、3月中旬の2.6%をピークに足元では2.1～2.2%に低下（債券価格の上昇）したままとなっています。短期金利を引き上げているのに、なぜ米国の長期金利は上らないのか。その背景として、相対的に金利の高い米国債に世界のマネーが集まっている。景気の好転、雇用環境が良いにもかかわらず賃金の伸びが過去より低く、物価が上がりにくい状況にあり、物価上昇力を欠く中でFRBは次回の追加利上げに踏み出すのは難しい。09年から続く景気回復局面が終わりに来ている兆候である。などと市場では言われています。いずれにしても、米長期金利の低迷はドル・円相場に直接の影響を及ぼします。米長期金利上昇、マイナス金利政策継続の日本＝日米金利差拡大からドル高・円安という金融市場の常識が通じなくなっています。市場の大方の見方として、日米それぞれの金利水準が大きく変わらない中では為替相場も硬直した状況が続くとみられています。米ドル金利と為替相場の動向には今後も十分な注意が必要です。以上